第３学年３組　社会科学習指導案

３年３組教室　指導者　篠原　保男

１　単　元　名　どうする日本の税制（国民生活と福祉）

２　単元の目標

（１）日本の税金について関心をもち、意欲的に追究することができる。
（２）日本の税制について、メリット・デメリットの両面からそれぞれ考察し、表現することができる。
（３）日本の税金に関する資料を活用し、自分なりの考えをまとめることができる。
（４）日本の税金の現状や、その影響について理解することができる。

３　単元の構想

（１）生徒にかける教師の願い

３年生は、１学期の終わり公民的分野「現代社会にとわたしたちの生活」において、現代日本が抱える諸問題について学習をした。その中で、「少子化対策」について話し合いの授業をもった。「子育て支援金」「中学生までの医療費無料を成人まで延長する。」「働く女性のために保育園を充実させる」など少子化対策を立てていくことは、最終的には、社会保障費が増大していく。そのためには、国の財政的な支援が必要であるということは理解できた。しかし、その支援のためには、多くの税金が必要であるが、それをどのようにしていったらよいかまでは、深く追及するまでには至らなかった。

抽出生Ａは、授業でも自分の考えを多く発表することができる。しかし、調べた資料の内容をそのまま伝えるだけで、自分の言葉で伝えることができていなかった。これまで学習してきたことと様々な資料から読み取った情報を自分の言葉でわかりやすく伝える力を伸ばしてほしいと願っている。

（２）教材について

本単元は、少子高齢化への対応や環境の保全、日本経済の発展など、経済上の諸課題に関心をもたせ、財源の確保と配分という観点から多面的・多角的に考察させることをねらいとしている。そこで、税務署の方をゲストティーチャーとして招いたり、最新の新聞記事、官公庁が公開している統計資料を取り入れ、生徒の主体的な調べ学習を活動の柱とする。税制の問題は、生徒たちの将来の生活設計に直結する問題である。現在のことだけでなく、将来起こりうる大きな問題として、とらえてほしい。その上で、自分たちの動きが将来日本を動かす大きな力になりうることも考えて欲しい。

（３）単元について

つかむ段階では、毎日の生活体験から日本の税金の状況について発表する時間を設ける。そして、現在の日本の税金しくみについて詳しく説明してもらうために税務署の方をゲストティーチャーとして招く。このことにより、消費税増税や法人税減税など現在の日本の税制についての課題が出てくるだろう。

深める段階では、消費税や法人税の税率など、日本の税金は諸外国と比べてどうなっているかを調べる。この調べによって、日本の税制が、所得税や法人税がなどの直接税が多く、逆に付加価値税などの間接税が少ないことに気付く。その上で、社会の構造変化が国の財政赤字を増大させ、大きく税制の問題になって行くことに関心が向くであろう。その上で、これからの税制の在り方について、小グループを編成し、自分の考えを高めていく。「高福祉・高負担」か「低福祉・低負担」という社会的課題を多方面から話し合いをもつ。

生かす段階では、学習したことを生かして、これからの日本の税制についての作文を書く場面を設ける。自分たちの将来への在り方を見つめることが期待できるであろう。

４　単元構想図　（１０時間完了、本時９／１０）

国の財政について考えてみよう（３）

つかむ

・税金について自分の考えを発表する。

昨年から消費税が８％になった。さ来年には10%に。	給料には所得税がかかる。	税金によって、みんなの様々なものができている。

・政府の役割について

政府の経済活動 ・政府が収入を得て支出する経済活動のことを財政という。	景気の安定化 ・景気を調節する。 ・国民くらしをよくするために重要。	社会保障 ・労働者の生活を保障する。 ・少子高齢化対策をしていく。

・税務署の方から現在の税制について知る。

日本の税制は大丈夫だろうか

日本の税金は高いの？安いの？（６）

深める

・日本の税金の仕組みや現状について調べ、発表する。

高い	安い
・法人税はアメリカに次いで２番目に高い。このままでは企業にとって日本からでてしまう。もっと引き下げていいのでは。 ・所得税は、累進課税といって所得が多いほど税率が高い。お金持ちにとっては、税率がかなり高いと思う。 ・ビールの値段の半分くらいは税金。日本の酒税は高いと思う。	・付加価値税（消費税）は世界の中でも安い方だ。 ・国民所得からすると、日本の税金は諸外国に比べて安い。 ・ヨーロッパの国々に比べると消費税の８％はかなり安い。スウェーデンでは、税率が２５％にもなっている。

現在の日本の１年間の税収は、50 兆円程度。国の財政赤字は、約 1000 兆円。年々増えている。

教師の支援

・税金への興味を引き出すために、税金でつくられているものや、制度についての資料を提示する。

・現在の日本の税制の現状について詳しく聞くために、ゲストティーチャー（税務署）を呼ぶ。

・最新の税制について知るために財務省発行の資料を提示する。

・法人税、所得税、消費税の年度別の推移を視覚的に示すために、電子黒板などの視聴覚機器を使う。

・諸外国との比較をするために各国の税制に関する資料を用意する。

・消費税が上がったのに、法人税が段階的に下げられる方向で進んでいる資料を提示することにより、今の税体系ついて話し合うきっかけとする。

※抽出生Ａが自信をもって話し合いができるように、対話や朱書きを繰り返し行い支援する。

消費税を上げていくのはなぜだろう

社会保障費の増加
・消費税を上げていくのは、社会保障に使う。財政赤字を少しでも減らす。
・消費税を１％上げると、約２．７兆円も税収が増えると見込まれている。
・直接税だけでは、限界があるので、間接税である消費是の割合を増やす。

少子高齢化
・間接税である消費税を増やさないと、税収が上がっていかない。所得税などは伸びていかないから。
・労働者階級からだけの税収だけでは、限界がある。
・若者に負担をかけるだけで高齢者には、結構手厚い。税の公平配分ということも必要。

日本の税制をどうしたらよいか（本時）

深める

・社会保障を減らすことはできないし、でも財政赤字が増えて続けてしまうから、スウェーデンなみに消費税を上げ、現状を維持していくべきだ。
・ 1000 兆円の財政赤字をを早く脱却して、健全なものにしていくべきだ。増税はやむをえない。
・ 北欧のように子どもから大人まで福祉が充実していくためにも、いろいろな税金が上げていくのも必要。

・思い切って年金や、社会保障を下げて、赤字財政を下げていくべきだ。その方がみんなが生活しやすい。個人ががんばればよい。
・アメリカ並みに税率を下げていくべき。健康保険も自分で払っていけばよいのでは。
・所得税や法人税など個人にかかる税金が高いと、このグローバル化した世界では、日本から企業や人が流出してしまい、逆に日本にとってはマイナスだと思う。

自分たちの将来について考えてみよう（１）

・「少子高齢化が進む中、日本はどのような税体系にしていけばよいだろうか」というテーマで作文を書く。

生かす

減税しないと企業がどんどん海外へでてしまう。だから、法人税をできる限り低くしていくべきだ。

社会保障費にかかりすぎている。福祉を簡単に削ることができないので、税と社会保障の一体改革が必要となっている。

税制問題はこれからの少子高齢化社会の私たちの生活や経済などの様々な分野に影響を与えているんだ。

・話し合いを深めるために最新の新聞記事を用意し、提示する。

・国の借金の多さを実感するために、インターネットの「国の借金時計」を提示する。

・高齢化の進展に伴い、社会保障給付費が大きく伸びる一方で、社会保険料は横ばいで推移し、その差は拡大傾向が続いていることを理解するために社会給付費と財政の関係を表した資料をを提示する。

・全員が参加し、日本の税制についての考えを深めていけるように、小グループ活動を取り入れ、生徒同士で関わる場面を設定する。

・メリットとデメリットの両方をおさえた上で、日本の税制をがどうしていくべきか考えをまとめるよう指示する。

資料から読み取ったことを伝え合い、他者の考えを受けて、自分の考えを深めようとする生徒Ａ

５　本時の学習（本時９／１０）

（１）　目　標

・話し合いを通して、日本の税制についてどうしていくべきかについて考えを伝えることができる。

（２）　過　程

１　日本の税金制度の現状について確認しよう（５分）

○前時で調べた日本の税金の問題について確認する。

＜社会保障費の増大と財政赤字＞

・国の借金は１０００兆円を超えている。増税が必要

・消費税を上げると２．７兆円税収が増える。

・去年は景気が回復し、久しぶりに税収が増えた。

＜少子高齢化＞

・昨年消費税が上がった。１年半後には10%になる。もっと上げないと苦しいのでは。

・税金を納める人が減ってきている。もっと広く税金税金を集めないといけない。

２　日本の税制について、どうしていくべきだろう（４０分）

○これからの日本の税制（「高福祉・高負担」と「低福祉・低負担」）を取り上げ、どうしていくべきか、小グループで話し合う。

○小グループの話し合いをもとにして自分の考えをワークシートにまとめる。

○全体で話し合う。

高福祉・高負担	低福祉・低負担
・少子高齢社会に備えて直接税よりも、広く浅く取れる、付加価値税を多くすべきだ。 ・社会保障を削ることは難しいので、増税をしていくことは必要だ。減税をすれば、新聞記事のように他の税収から取ることになるので福祉施設の人たちもかわいそう。 ・減税すればまた財政赤字が続くことになる。	・思い切って社会保障を減らすべきだ。そうすれば、増税しなくてもすむと思う。 ・世界的にみても日本の法人税は高い。まだ率を下げることができる。小さな政府で、個人が努力していけばよいのでは。 ・増税すると経済活動が低下する。経済が活発になれば税収も増えるから。

○税務署の方の話を聞く。

３　本時の学びを振り返ろう（５分）

○　気づきや感想をワークシートにまとめる。

教師の働きかけ

・本時の話し合いの根拠にするため、前時で発表した日本の税体制について全体で確認する。

・全員が参加し、日本の税制問題についての考えを深めていけるように、小グループ活動を取り入れ、生徒同士で関わる場面を設定する。

・話し合いを円滑にするために、司会者をたてる

・小グループの話し合いの後、根拠のつけ加えや自分の考えを見直す時間を設定する。

・生徒の多面的な調べや考えを引き出すため、座席表を活用して指名順を工夫する。

・極論にならないように、常にメリットとデメリットの両面から考えるように指示する。

・今後の税の在り方についてつながるように、税務署の方の話を聞く場を設ける。

・本時の話し合いを通して日本の税制の問題について自分の考えをまとめる。

（３）評　価

・日本の今後の税制について、根拠をもって自分の考えを発表することができたか。

（ワークシート、話し合いの様子、発言）